

福 井 県 医 師 会

だより

第723号 令和3年(2021)9月



一乗谷朝倉氏遺跡の虎耳草 福井市 吉村 信

表紙写真説明：一乗谷朝倉氏遺跡の虎耳草

福井市 吉村 信

一乗谷朝倉氏遺跡の売店から一乗滝方面に伸びる山の斜面に残る石垣には、夏の一瞬、直射日光が当たらぬ湿気の多い環境がその成育に適するののか、雪の下の見事な群落が出現する。10数米に亘って続く、虎耳草の名も持つ白色五弁の象牙のイアリングに似た清楚な花々が、斜面を流れ落ちるが如く咲き誇る佳麗な様は、在りし日の朝倉の栄華を想起させる。

朝倉の 栄華偲ぶか 雪の下

醫 縫 録

10年後、20年後の福井県の 外科医療を思う

福井県外科医会会長 道 傳 研 司



この度、第20代目の福井県外科医会会長を拝命致しました福井県立病院外科の道傳研司と申します。2期4年間、会長を務められた先生もおられますので、その点を考慮しますと、第17代目となります。今春の福井県外科医会総会はコロナ禍で中止となり、総会での御挨拶はできませんでしたが、任期中、当会会員の皆様をはじめ福井県医師会会員の先生方のご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、福井県外科医会会則の施行日が1979年（昭和54年）10月28日ですので、福井県外科医会は1979年に発足したと思われまふ。当時は医学部入学定員数が1981年～1984年にピークを迎えようとしていた頃です。人口10万対医師数は変わることなく毎年増え続け、現在も、医師の地域・診療科偏在が解消されないまま、毎年数千人ずつ医師が増加しています。この状況が続くと、全国の総医師数は2010年当時に比べて2035年には27.1万人から39.7万人へと46%増加するとされています。ただ、60歳以上の医師数が5.5万人（医師全体の20%）から14.1万人（同36%）に増加する一方で、60歳以下の医師数は21.6万人から25.5万人へと18%の増加に留まると予想されています。すなわち、全体的に医師の高齢化が進んでいきます。ここで注意しなければならないことは、これは医師全体の推移であり、2000年代に入って減少に転じ、今なお明瞭な増加傾向がみられていない外科医に関しては、高齢化がより顕著になっていくことを意味しています。2000年代に入って外科医が減少に転じた頃は、1999年に横浜市大病院の患者取り違え事故や都立広尾病院の消毒薬誤注事件などが起こり、医療に求める世間の基準が厳しくなった頃です。また、指導的立場にあった当時の私たち外科医も自分たちの受けてきた教育や処遇をそのまま変えることなく続けていました。その結果、気付いた頃には外科を希望する若い医師がごくわずかになっていました。福井県外科医会発足時には誰も想像しなかった事態です。

今、2035年頃に40～50歳代となって外科の主な担い手になっていく人材を確保することが求められています。多様な価値観がある時代を育ってきた今の若者を外科に迎えるためには、われわれが彼ら一人一人の価値観を十分に尊重して、外科医を目指そうかどうかと迷っている彼らの意思決定を支援していく必要があります。さらに、たとえば、Specialty を目指すのか、あるいは、Generality を目指すのかなど、意思決定を支援していくことも求められます。若い医師たちが活躍する頃の将来の外科医療はどうなっているのでしょうか。たとえば、がんの外科医療においては、1900年代後半は『根治』が最優先でした。その後、医療機器の進歩等もあって、今は『低侵襲』というキーワードが加わっています。『医療安全』もすでに重要なキーワードです。今後、『医療AI』、『遠隔外科医療』、あるいは『再生医療』なども外科医療を左右していく可能性があります。また、今後、85歳以上の高齢者の増加も外科医療に大きく影響していくことでしょう。そのようなことを彼らと共に想像しながら、今後、若い外科医が増えていくことを切に願うばかりです。

現在、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという、誰も経験したことがない危機的状況が続いています。しかし、福井県内のどの医療機関も医療提供体制の維持という共通の目標を持って協力することで多くの危機を乗り越えてきています。急激な少子高齢化に向かう中、福井県の外科医療提供体制の維持は長期にわたる重要な目標です。今後も福井県外科医会がその重要な役割の一翼を担っていけるよう、当会会員である県内の医療機関や外科医の皆様方におかれましては、引き続き、ご指導・ご支援の程、よろしくお願い致します。